

学内向け教学 IR データ配布環境の構築と学習指標としての標準化 GPA の検討

村瀬 智一, 梅田 雅宏

医療情報学ユニット

昨年度の学内研究助成で教育関連データを解析した結果, 大学内の教育 IR の推進には, 教職員の学生成績データアクセスへの効率化が必要不可欠であると体感した. そこで学内ネットワーク上で成績データが共有できるように, 個人固有 ID を付与した後に氏名・学籍番号を除去することで, 匿名化を行う予定である.

また, 今後教学 IR を推進する上で学生の学習指標として, GPA (Grade Point Average) の扱いを検討する必要がある. GPA は各科目の評価(『優』～『不可』)を点数化することで, 学生の成績データを数値化できるため, 大学生の学習評価指標として注目されている. しかし, 科目の評価は担当者によって基準が異なるため, 『優』が多い科目や『優』が少ない科目もあり, 2つの科目でとった『優』を同じ点数として平均した値が学部間で比較できる指標として利用できるのかは定かでない. そこで, 各学年の科目毎の評価から標準化 GPA を計算することで, 通常の GPA に比べてどの程度数値が変化するか調べると共に, 教学 IR の評価指標として利用可能かを検討する.

入学時の学力と 1 年前期 GPA の関連性の解析

渡邊 康晴, 神内 伸晃, 山崎 翼

医学教育研究センター 医療情報学ユニット

1 年次で欠くと休退学に繋がりがやすく, この時期の教育指導は重要である. 本学では 4 月に入学時学力診断テストを行っており, 前期 GPA との比較ができれば個々の学生の成績動向を早期に捉えて教育指導の根拠にできる. しかし, 指標の異なる成績データは容易に比較できない. そこで, 入学時学力と 1 年前期 GPA の関連性の検討を目的とし, 異なる成績指標データを比較する方法を構築した.

対象は 2015 年に入学時学力診断テストを受験した 145 名とした. 前期終了時点の GPA を取得し, 学力診断テストと GPA を偏差値に変換して成績上昇者や成績下降者など 5 グループに分類した. 学部別にグループ間の人数の偏りを検定した.

学力診断テストと 1 年前期 GPA の相関は 0.52 であり, 相関関係が見られた. GPA が平均以下の学生のうち, 成績が大きく上昇したのは 19 名, 大きく下降したのは 27 名であった. 学部別では, 成績が上昇した学生は看護学部で有意に多かったのに対し, 鍼灸学部では 2 極化の傾向を示した.